

●企業紹介

小松電機産業株。1973年設立のベンチャー企業。制御機器の開発に定評がある。'96年HNS研究所から、郷土の偉人「西藤彌兵衛翁」を出版。来春には「清原太兵衛翁」を出版予定。また、小松社長の未来へのメッセージ「母なる中海(森清著)」がダイヤモンド社より出版された。本社…島根県八束郡八雲村。

小松電機産業株式会社 社長
小松 昭夫



おもしろ、おかしく 楽しく、ゆかいに

宝は、脚下にあり

「天馬、空を往く」というのでしょう？ エンジニアが、そうした自由さ、奔放さをもって、夢を具現化するに足る会社が、この辺に無かった。だから自分で創ったんです(笑)。
「門番(シートシャッター)」と「やくも水神(排水処理システム)」という二つが当初のヒット商品ですが、その開発に至る着眼は、まさに脚下にあり。山陰の寒さと、中海、宍道湖という自然環境に対する関心が、本当に自然に、製品化へのアイデアに繋がっていったと思います。もともと、その着眼も、自分の中に「思い」があつてこそ。「思い」がないと、気づかずに見過ごして、宝の傍を通り過ぎてしまうんです(笑)。

ゆかいでありたい

若いころは、稲作機械の開発をやりました。稲ですから、欧米の技術を導入するわけにもいなくて、自分でやるしかない(笑)。

要するに、テーマが大きくても小さくても始める時は結局一人なんです。目標を絵に描いて、それを数字に置き換え、計画をたてて組織を創っていく。それしかない。「役割分担」はそのあとですね。「志」があると、人は集ま

ります。ただ、共有するプロセスが楽しくないと、なかなか長続きしない(笑)。

私はね、「楽しむ」より更に、みんなで「ゆかい」でありたいな。使命感があると、すべてがゆかいだと思えます。おもしろ、おかしく、楽しく、ゆかいに。自分自身も、周りの皆さんも、そういう人生でありたい(笑)。

「志」の旗を立てる

昭和六十年の八月、「門番」の完成を新聞発表した時のことです。新聞を手に、大手重機メーカーの社員が飛んできました。「西独技術の素晴らしい「減速機」があります。使えませんか？」こんな田舎の(笑)八雲村における出会いがさらに優れた「門番」に繋がったんです。

情報は、発信するところに集まっています。これからは、地方も都会もない。「志」の旗を立てた人が在る、そこがステージ。誰かが「旗をたてたぞ」と発信しさえすれば、共鳴する仲間と、もつと多くの情報が、どんどん集まってくるんです。そんな時代です。



伊藤 本二

御さわかネットワーク代表、元テレビ新広島キャスター、ジャーナリスト、インタビュアーとして活躍中。広島県立大学では「自己表現論」の講座を担当。若者文化への造詣も深い。